

段ボール情報紙

週刊包装ニュース

発行所(有)包装ニュース社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-7 東和錦町ビル
編集・発行人 中村政雄 (兼編集・編集) TEL03(3293)8822 FAX03(3293)8823
購読料1年間¥24,687(前金・税込み) email:packaging.news.green@athena.ocn.ne.jp

クラウン、新設「埼玉事業所」フル稼働でスタート 50年先も先もここで生産、近未来型工場を実現

今年3月から本格稼働を開始したクラウン・パッケージの新工場「埼玉事業所」は、マイクログ段を月間200万平米フル生産し順調なスタートを切っている。同工場は、需要が着実に増加する関東市場の中で、将来生産量が5倍に増えても主力の東京事業所並みの生産にも対応できる構造能力を持ち、このためもう1工場分もの設備増強が可能な設置スペースも確保されているのが特長。工場内は防塵対策を施し、外部からの異物も防ぐなど完全密閉型、2階の加工エリアは食品工場並の衛生対策を配備、熱対策として天井を8米の高さとし作業環境にも配慮した上、障害者の雇用促進も積極的に取り組むべき、万全な安全対策とバリアフリ化を施しており、「50年先もここで生産」出来る近未来型段ボール工場を実現している。その現場を紹介する。

埼玉事業所は、東京、神奈川事業所のオーバードフル状況がここ数年続く中、従業員の作業時間の軽減と両工場の補完を狙いに新設に踏み切ったもので、仙台事業所以来25年振りの新設、クラウンの象徴的な工場として同社の技術を存分に投入し完成させた。ここで働く従業員80名の大半は、神奈川、東京事業所を中心に精鋭部隊が全国各工場から派遣され作業している。

この埼玉事業所は、東京・神奈川事業所の中間地点に位置する圏央道の狭山日高と入間インターチェンジに近接するなど交通至便、両工場から僅か1時間で展開できる埼玉県飯能市茜台3-12の工業団地内に設置、バス停名称は「クラウン・パッケージ前」。敷地3万4506平米、床面積は1階が1万6788平米、2階は1万平米、昨年11月から営業開始、その後は順次加工設備を設置し稼働、2月中にコルゲータの据え付けが完了し、3月1日から全マシンが揃ってフル稼働を開始、これにより東京、神奈川の3事業所で関東市場全てをカバーできる体制を整えた事になる。

工場外観は近代的な建物で2階建て。1階は生産現場、そして2階も一部生産現場としているが、事務所、食堂(時に大会議場)とバルコニー、会議室。障害者を積極的に雇用すべき、それに対応したバリアフリーなどの設備も揃えている。また同社の事業所、営業所には必ず設置してあるお馴染みの「製品ショールーム」もあり多数の新製品を展示している。2階にある食品向け加工エリアには、手洗い、エアシャワーなど万全な衛生対策を施している。生産現場は、1階はコルゲータ、印刷、打抜きの各ライン別の工場、2階はグレア専用工場と各工程別のエリアを工場分けしており、どの工程エリアも先行きの生産増を見越した十分な増設スペースを確保している。特質すべきはコルゲータ熱を再利用した国内初の熱供給システムを採用、これが冬場は事務所内に熱を供給、このため空調設備を稼働させずに済み無駄な電力を使わない。他に工場内入場は電子カードで管理、衛生対策としては、靴を履き替え作業に当たっている。

(3頁へ続く)

(トップより続き)

更に工場は、あらゆる所の無駄を省いている。1万坪の敷地に建坪8200坪と目一杯に建築したが、これは機械間の次工程への「動線」を最短化するのが狙いで、工程間を走るリフト台数は同社主力工場と比べ4分の1ですんでいる。また環境にも配慮しており、エネルギー源のボイラー、空調設備ともCO



クラウン・パッケージ「埼玉事業所」の全景。モダンな作りで2階建(写真はパノラマ撮影)

クラウン、5号段強化 B段より薄い段高僅か2ミリ

クラウン・パッケージは、創業当時から生産している5号段の拡販体制を強化している。新工場の埼玉事業所の両面コルゲータ、片段機にそれぞれ装備し、名古屋、東京、大阪事業所に次いで、これで4ヶ所目である。

5号段は段高が2・2・1ミリ、30センチ当たり山数は62山とB段(2・5・3ミリ、

2発生源の重油燃料は使わず「ガス」で供給、CO₂を出さない。

注目の機械設備の、コルゲータは、東京工場から両面機(G、E、五号、B段)、片面機(F、E、G、五号段)の2台を移設、そのレイアウトは両機が併設、その間にもう1台コルゲータを設置できるスペースも確保してある。見学時は毎分200米の速度で様々な色物ライナやエンボス加工の紙を貼合していた。ここで貼合後のシートは、出荷、印刷、抜き工程にそれぞれリフト搬送する。ただグリア加工へはエレベータを通じ2階のグリア工場に供給、製品化し出荷はエレベータで降りてくる。

加工設備は東京、神奈川工場から移設、更に新設。まず印刷ラインは、印刷工場にマイクログ段対応の梅谷フレキソ印刷機が好調稼働隣接する打抜き工場には、8台の自動平盤打抜機、更に2階のグリア工場には1階からエレベータで材料を供給、これをグリア4台で加工している。

一方、埼玉事業所への生産移管、設備移設により東京、神奈川事業所の作業負担は30%軽減、同時に操業効率を高めるべく設備レイアウトや工程の再構築も進める事も可能となった。

埼玉事業所はまずは年商25億円を目指し、将来は東京、大阪、名古屋の基幹工場と同等の従業員250名規模の工場にする。

同社は、段ボールの軽量化を積極提案しており、極薄のG段、創業時の5号段の比率を一段と高め埼玉事業所は同社の戦略拠点となる。(将)

50山)より薄く、しかしE段(1・2ミリ、95山)より厚い段種。B段に比べ、25%薄く、中芯使用量が8%削減可能で輸送時の積載量が向上、平滑性が高く高精度印刷が可能、組立てやすく包装工程での作業効率がアップ、中装箱としての機能を持たせた輸送箱としても使えるなどの特長を持つ。陶器の産地である中部地区では、陶器ガラスの保護向けに5号段が使われており、クラウン・パッケージの「創業フルート」でもある。(将)